

平成24年度下水道事業決算の概要

1. 決算の概要

歳入	26億5,410万円	A
歳出	26億5,234万円	B
歳入歳出差引額	176万円	A-B

平成24年度下水道事業特別会計決算額は、歳入が26億5,410万円、歳出が26億5,234万円であり歳入歳出差引額は176万円と黒字となりました。

(1) 主な歳入の内容

- ・事業収入（下水道使用料等）は、加入人口の増加等により、6億4,696万円と前年度と比較して43万円の増加となりました。
- ・繰入金（一般会計からの補助等）は、公債費（借入金の元利金返済）が増加したこと等から8億4,768万円と、前年度と比較して5,888万円の増となりました。

(2) 主な歳出の内容

- ・管理費（施設の維持管理費）は、県への流域下水道管理運営費負担金が増加したことに伴い、6億1,498万円と前年度と比較して3,167万円の増となりました。
- ・建設費（施設の建設改良費）は、事業を翌年度に4億9,163万円繰り越したことや勅使地区の農業集落排水施設整備事業の完了等により、6億8,505万円と前年度と比較して1億1,999万円の減となりました。
- ・公債費（借入金の元利金返済）は、返済元金の増により、13億4,055万円と前年度と比較して3,054万円の増となりました。

(3) 主な事業の内容

- ・公共下水道事業では、片山津処理区として片山津町、動橋町ほか、大聖寺川処理区として大聖寺緑が丘町別所町ほかで管渠等の整備を進めたほか、浄化センターの自家発電設備等の整備を進めました。
- ・農業集落排水施設整備事業では、勅使地区の整備が完了しました。
- ・平成24年度より下水道計画区域を見直し、今後の下水道整備予定区域を縮小し、合併浄化槽により整備を進める区域を拡大したことから、合併浄化槽整備助成件数は31件と前年度と比較して25件増加しました。

2. 歳入・歳出決算額の内訳

